

VB 2010クライシスの実態とソリューション

あなたの会社のコンピュータが寿命で動かなくなるリスクとは？

[第4回]

VB6.0からの脱却法

＜革新のソフト開発ツール「GeneXus」の勧め＞



納富 誠治 | Noutomi Seiji

BBC (ベスト・ブレイン・コンサルタント) グループ代表

■1971年大分大学経済学部卒。同年(株)日立製作所入社。世界初の3モーター3ヘッドカセットデッキD-4500を企画し成功する。80年独立し、(株)すかいらーくの社長ブレインとなり、81年同社経営顧問に就任すると同時に、日本システムデザイン(株)を設立する。日本初の経営・情報システムデザイナーとして、経営指導と情報システムデザインの両方を実行できる第一人者。すかいらーく、バンダイ、クイーンズ伊勢丹、堀場製作所等、100社を超える企業を指導し、99年BBCグループ代表に就任、現在に至る。著書に『省脳化システムリデザイン』等がある。

マイクロソフト (MS) 社が提供する開発言語 VB (ビジュアル・ベーシック) は、2000年問題で汎用機時代の終焉が急に押し寄せて、慌ててオープンサーバに乗り換える必要が生じた時に、当時の日本のシステムエンジニア (SE) には、現在主流の開発言語 Javaの修得者がまだ少なかったという背景もあって、比較的容易なVBによる開発で凌いだことで大きく貢献しました。その後、web化の潮流に適應するため、MS社はweb対応の新開発言語としてVB.NETをリリースする一方、これまでのVB (6.0) は2008年でサポートを終了して、その寿命が尽きようとしています。ところが、現実の日本はMS社の思惑より多くのVB (6.0) ユーザを抱えていて、このままでは2010年頃までに現行のシステムが正常に稼動しなくなる恐れがあります。本連載では、この「VB2010クライシス」についてレポートしてきました。

第4回では、このような緊急事態に対応するベストソリューションとして、2006年末に遭遇しクライシスを認識させられた食品メーカの事例説明の際に紹介した (第1回 (2008年11月号))、これまでの常識を覆す革新のソフト開発ツール「GeneXus」を詳細にレポートします。まさにVB2010クライシスの典型的事例への対処に当たり、突然の難局を

打開するために半分神頼みで採用した「GeneXus」でしたが、予想を上回る成果を得られ、無事に10の基幹業務をweb系の最新システムとして短期間に、しかも標準的な開発予算の半分以下の費用で再構築することに成功しています。

1. webシステム開発の現状と課題

今日、システム開発と言えば、「オープン系でJavaでOracle」というのが定番で、このように提案すれば、まず疑問を持たれることはないでしょう。ただし、非常に高くつくことは間違いありません。この10年でハードウェアの価格が10分の1位になったと言われていますが、そのメリットを食い潰すのは人が開発するソフトウェアです。10年前はコンピュータができることも、また当時のユーザが希望することも慎ましかったのですが、今日はユーザの期待が大きく膨らんでしまっています。それに加え、システムの可能性を10倍位は拡大したブロードバンド・ネットワークを始めとするインフラの発展により、そのニー

ズの実現性が高くなり、結果として、ソフト開発の規模と難易度を想定以上に増大させてきました。

だからと言って、そのためにソフト開発予算が増大することはユーザの理解が得られ難いので、飛躍的に開発効率の優れたツールが必須であるにもかかわらず、これまでは本命が出てきていないという現実課題がありました。

2. 革新の開発ツール「GeneXus」とは？

筆者が今回のVB2010クライシスのベストソリューションだと考える「GeneXus」は、1988年に南米ウルグアイでアルテッチ社が開発し、既に世界約30ヶ国、5,500社以上の利用実績を持つ国際的認知度の高い開発ツールです。

その特長は、図1のように実に革新的です。「GeneXus」は厳密に言えば、フレームワークと呼ばれるサーバ環境からDBMS（DataBase Management System）まで包含した構築ツールで、これまでは1990年代に一世を風靡した「Notes/Domino」や近年大ブレイクしている

「INTRA-MART」等がありますが、これらとは次元が違う優れた機能性を持っています。

特に「GeneXus」は、現行のOS、DBMS、開発言語を完成時に選定すれば良く、SEが技術を意識することなくジェネレータ機能で自動生成できるという、これまでの先決め方式の壁を打ち破った革新機能を備えているのです。

3. GeneXusの驚異のマルチ対応機能

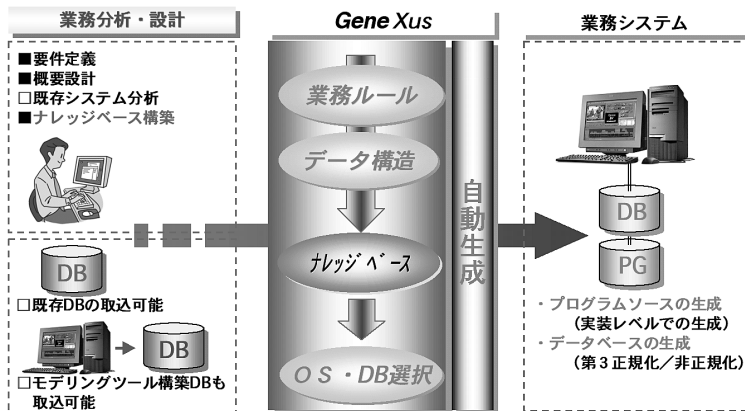
図2は、そのマルチな対応能力をまとめたものです。これだけの機能があれば3Kと揶揄されているSEの負担は一気に軽減し、より上流のデザイン設計に力を置けるようになるので、SEのポジションを大きくレベルアップできるはずで

です。GeneXusは、この革新性で一気に世代を飛び越えた感があります。卓越した対応機能により、飛躍的な進歩を遂げていくシステム開発の現状を、筆者はこの2年間、目の当りにしてきました。

具体的にはOS/DBMSを選ばず、また、プログラムの自動生成機能により、SEがOracle、SQL

図1 GeneXusの機能概念図

GeneXusとは、データ中心設計（DOA）の思想に基づく業務システム自動開発ツールです。データ構造や業務ルールを入力すると、自動的に「データベース定義、アプリケーションの各種ソースプログラム」を生成し、速やかなテスト&レビューの実現をはかります



出典) (株)ウィング

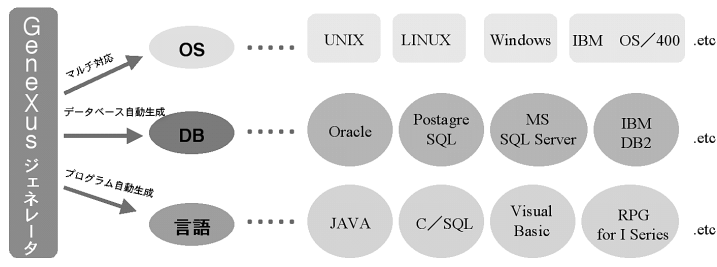
Server、DB2等の難解なDBMSの知識やJava、VB.NETといったプログラム開発言語の習熟した知識を修得することが基本的に不要となります。その部分は完成時にGeneXusで指定すれば自動でジェネレートしてくれるので、SEにとっては夢のような機能です。つまり、SEは、メーカーにより仕様の異なるDBMSを複数修得したり、バージョンアップの度に再修得するという重い負担から開放されるのです。

そして、これはユーザにとっても大きなメリットをもたらします。これまでは、DBMSを基本的に同一製品に統一することで運用の効率を上げていましたが、逆にこれは業務に合ったDBMSを選択して機能とコストを最適化したいという願いを捨てることになっていました。しかし、GeneXusでは、そのような負担やリスクなしに自由に選択できるのです。

4. ユーザと対話して開発できる先進性

もうひとつの革新は、開発の途中で工程をプロト的にユーザに見せて確認することができることです。これまでのソフト開発は、ヒアリングして企画書及び基本設計書が提出されて（実は、それだけでは判らないのですが）承認すると、あとはブラックボックスとなり、スケジュール管理表による進捗位しか見えなまま完成します。そして、これが開発サイドとユーザとの間に大きなギャップを引き起こし、検収時に設計変更の要求が出る位は当たり前で、大幅な設計変更やキャンセルも発生し、ひどいときは損害賠償事件に至ること

図2 GeneXusのマルチ対応によるメリット



※GeneXusのジェネレータは、現在主流のOS/DB/言語の殆どに対応！！
 ※これで不可能だった個々のシステムに最適なOS/DB/言語を自由に組み合わせ可能！



オープン系最大の欠点であるバージョンUPに伴う移行から実質開放される！

もあります。

一方、GeneXusの場合は、開発の途中でプロトを容易に作成することができます。重要なシステムモジュールを作成する際は、そのままプロトのようにデモンストレーションでき、ユーザが確認しながら開発を進めることができるので、ユーザと開発サイドとのトラブルは殆ど解消すると思います。

5. シンプルな開発工程により品質アップ

GeneXusは、図3のように開発工程をこれまでに比べて飛躍的にシンプルにしますので、

図3 GeneXusによる開発工程

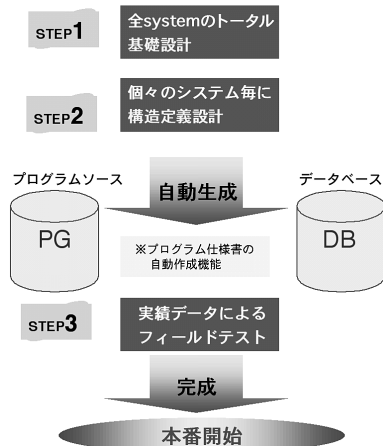
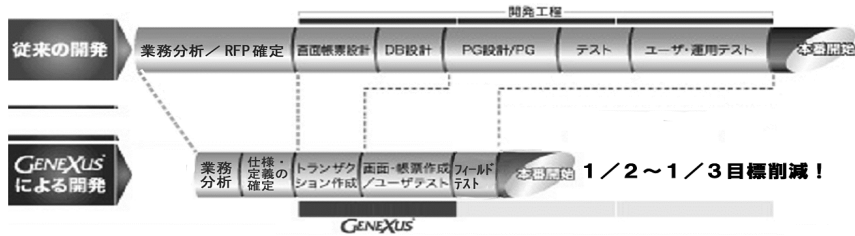


図4 GeneXusによる開発工数削減効果



今後の開発スタイルを抜本的に大変革するだけのパワーを秘めています。今後は、開発SEの知識と力量に成功を委ねてしまうのではなく、業務知識を豊富に持ったユーザスタッフがGeneXus機能設計用画面を見ながら担当SEにその場で指示し、共同作業でソフト開発ができるのです。なにしろプログラムは自動生成ですから、この連携を密にすることによって、ユーザの要望を反映した顧客満足度の高いシステムが高い品質で完成するのです。これはまさにシステム開発の革命だと思えます！ もちろん細かく言えば、まだリファインして欲しいところや機能強化して欲しいところがありますが、今の状態でも十分にサプライズなのです。

6. 開発工数の大幅削減

GeneXusはユーザと開発サイドがジョイントして開発できる顧客満足度の高い品質がメリットですが、データ分析とデータ項目設計をするだけで、あとはプログラムの自動生成機能により、図4のように驚くべき工数短縮が実現することも副次的なメリットと言えます。昨今はサブプライム問題の影響により世界的規模での設備投資削減時代ですが、ITも同様の厳しい状況となっています。投資はできないが、一方、コンピュータが長期にわたりダウンして業務に重大な支障を来し企業存続のリスクにもつながりかねないとなれば、

話は違ってきます。そこで救世主となるのが、低コスト、短納期であるにもかかわらず、品質がアップする革新のソリューション「GeneXus」なのです。

7. ユーザによる自社開発&保守

これからは、ユーザとGeneXus SEがジョイントして設計し、二人三脚で互いのスキルを融合して満足度の高いシステムを完成する夢の時代が到来するのです。

しかも、低コストで短納期、かつOSはもちろんDBMSや開発言語にも縛られる必要がありません。さらに凄いのは、ユーザの担当者がこのGeneXusを修得すれば、自在に自社のシステムを自社開発できるので、当然ソフトの保守も社内でOKとなり、ソフトはユーザ自身で開発し運用するという究極の夢が実現します。

8. その他のGeneXusの特長

GeneXusは、以上のような卓越した特長以外にも、次のような優れた機能を有しています。

- ① 旧DBMSを自動で新DBMSに移行できる「リバースエンジン」機能
- ② OSやDBMSのバージョンアップにも自動対応するメンテナンスの軽減化
- ③ 納品前に顧客の希望するOS、DBMS、言語を選択するだけで対応可能
これが驚異のGeneXusの全貌です。